



右隻「源氏物語」(桐壺)



左隻「平家物語」(頼政の鶴退治)

紙本着色 江戸時代(十七世紀)
各総一五七・〇×三四七・〇

右隻に『源氏物語』の「桐壺」、左隻には『平家物語』の「鶴」を取り合わせた一雙の屏風である。

「桐壺」は、源氏十二歳の元服の儀の場面が取り上げられている。また「鶴」は、歌と弓の名人である源頼政が、天皇を脅かす怪鳥を二度も退治したという話のうち、近衛天皇の御世の鶴退治の場面を取り上げている。細部まで丁寧な描写しながら、図様全体の構成力と、人物の表情の豊かさや力強さがこの屏風の持ち味になっている。古典を題材にしながらも、土佐派や狩野派とは異なる、近世初期に一家を成した岩佐又兵衛(一五七八―一六五〇)という新しい画師による新しい図様である。ただ、本屏風の筆者は岩佐又兵衛と伝えられるが、又兵衛風の特徴が誇張され気味であることから、又兵衛の次世代の工房画師によるかと考えられる。

しかしながら、又兵衛が故事を通じて古典の物語からも多くの題材を取り上げた作品を制作し、それを後の画師が模写し、近代までその影響が残っていることを考えれば、このように左右一対になる屏風に公家と武家の対照的な内容を上手く取り合わせることは、又兵衛自身によっても行なわれていた可能性は高い。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

江戸の美意識 — 絵画意匠の伝統と展開

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 28

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十四年三月二十六日発行

©2002. Museum of the Imperial Collections